

山梨県衛生環境研究所年報

平成 27 年 第 59 号

Annual Report of the Yamanashi Institute
for Public Health and Environment

No. 59, 2015

山梨県衛生環境研究所

はじめに

山梨県衛生環境研究所は、県民の生命と健康を守るため、科学的・技術的中核機関として、感染症や食中毒の原因究明やまん延防止、食品及び医薬品の安全性の確保、更には大気、水質及び土壌の汚染防止等の環境保全に関わる試験検査、調査研究に取り組んでおります。

平成27年度には、ブラジル及びコロンビアを含む南アメリカ大陸でジカウイルス感染症の流行が急速に拡大し、多数の患者が報告されました。特に、平成28年8～9月にはブラジルのリオデジャネイロでオリンピックとパラリンピックが開催され、多くの人の渡航が予測されることからその感染拡大が危惧されています。平成26年に国内発生したデング熱と相まって、蚊媒介感染症の対策・対応が課題となっています。

このように世界のグローバル化が進む中、感染症や食中毒の対応をはじめ、食品や飲料水の安全確保、微小粒子状物質（PM_{2.5}）や放射能測定など様々な課題において、県民の生命と健康を守るため保健所、医療機関、環境事務所などの関係機関と連携し、情報共有を図りながら迅速な対応に努めてきました。

また、平成27年度の大きな出来事として大村智先生のノーベル医学・生理学賞の受賞がありました。山梨県出身者のノーベル賞受賞は初の快挙であり、当所の職員を含め県民にとって大きな喜びと誇りとなるもので、本県の未来を担う子供たちにとって夢と希望と勇気をもたらすものとなりました。

今後も引き続き、県民生活の安全・安心を支える試験研究機関の中核として、健康危機、環境問題に迅速かつ的確に対応できますよう、日々の試験検査、調査研究、人材育成、試験検査技術の向上、危機管理体制の強化、関係機関との連携強化、県民に対する情報発信などの機能強化に努めて参りますので、なお一層のご支援をよろしくお願いいたします。

ここに、平成27年度の調査・研究の成果を「山梨県衛生環境研究所年報第59号」としてとりまとめました。

どうぞ、ご高覧の上、率直なご意見・ご指導をいただければ幸いです。

平成28年8月

山梨県衛生環境研究所

所長 浅川 洋 美

目 次

I	組織と沿革	1
II	業 務 報 告	
	企画情報科、総務スタッフ	2
	生活科学部	7
	微生物部	9
	環境科学部	12
III	資 料	15
IV	論文抄録等	29
V	研 究 報 告	31
	LC-MS/MS法による畜産物中の動物用医薬品一斉試験法の検討（第1報）	32
	LC-MS/MS 法による蜂蜜中の動物用医薬品一斉試験法の検討	40
	山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査（Ⅱ）	44
	蚊の生息調査結果（2014～2015）	47
	コガタアカイエカ発生源の事例報告	50
	食品製造施設における黄色ブドウ球菌疫学指標の解析	52
	山梨県内のレジオネラ属菌の消毒が困難な浴用水におけるモノクロラミンの消毒効果	55
	山梨県内におけるノロウイルスが原因となった集団下痢症事例	58
	山梨県におけるインフルエンザの検出状況（2015～2016）	60
	山梨県内河川の付着珪藻 ―富士川（釜無川）の珪藻―	63
	山梨県内の微小粒子状物質（PM _{2.5} ）汚染状況について（第2報） ―質量濃度および成分分析結果（平成25～27年度）―	71
	山梨県における環境放射能水準調査の結果について	78
	山梨県における外来淡水産プラナリアの生息調査（平成27年度）	83
	漂着した水生植物による山中湖への窒素・リン・有機炭素負荷量の推定	85
	環境騒音の周波数分析について	88